

CSR REPORT 2022



TOP MESSAGE



株式会社カナエ
代表取締役社長
樋高 成憲

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2022年は新型コロナウイルスの感染が続き、人々の生命はもとより世界経済にも大きな影響がでました。ロシアによるウクライナ侵攻でエネルギーや穀物価格などが高騰し、金融市場・為替動向も大幅に変動するなど、先行きについても予断を許さない状況が続いております。また、気候変動の影響によると考えられる大規模な自然災害が世界各地で頻発しました。これまで数十年に一度といわれた出来事が日常となりつつある中で、企業には今まで以上に変化に柔軟に対応できる力が求められ、その社会的責任はより大きくなっていると感じております。

当社はこれまで包装資材の販売、受託包装加工、包装機械の設計・販売を三つの柱とし、パッケージを通してお客様や社会の課題を解決することを事業目的として取り組んでまいりました。近年は、包装資材においては安定供給を第一とし、受託包装加工においてはより高い品質で安定した生産体制を整え、包装機械では省人化・合理化効果の大きい

提案をさせていただくなど、お客様に「安全・安心」をお届けできるよう努めてまいりました。また、2030年ビジョンを「カナエは新しいパッケージで市場創造し、持続可能な社会に貢献します。」と定め、2019年に完成した「包装技術開発センター」を中心に、お客様、お取引先様との共同開発も含めて環境負荷低減や課題解決につながるパッケージの開発を進めております。

2023年度は経営年度方針を「温故知新」とし、従業員全員が企業理念への理解を深め、理念にそって行動することで、もっと皆様のお役に立ち喜んでいただける企業を目指し、新時代を力強く創っていきたいと考えております。

当社はこれらの取り組みをもとに、2023年も引き続きビジョン実現に向け真摯に取り組んでまいります。お客様、お取引先様、株主の皆様、関係者各位すべてのステークホルダーの皆様に、心より御礼申し上げますとともに、今後ともなお一層のご支援、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

1_ 理念浸透に向けた取組み

世の中の不確実性が高まる中で、当社が目指すべき方向を見誤らず、より優れた成果を創出する集団であるために、社員のベクトルをあわせ、持てる力を発揮することが重要であると考えております。

「社員が職場や仕事にやりがいを持ち、満足して働くことで、お客様を大切に思い、良い商品を提供できる。お客様を通じて良い商品を多く世の中に提供することで、社会に貢献できる。社会が良くなること

で、当社や当社社員の利益に適う。」という循環の考え方です。

この循環の実現に向けて、創業の精神である「社訓」はそのままに、企業理念を見直しました。また、見直しにあわせて理念浸透のツールである「鼎心」を10年ぶりに改定いたしました。2023年度は全社的な理念浸透と実践に取組み、ステークホルダーの皆様にもその成果を実感いただけるよう努力してまいります。

2_ 持続可能な社会の実現に向けた取組み

当社が扱う商材（パッケージ）は、私たちが生活していく上でなくてはならないものですが、役割を終えたパッケージの行方にも世の中の関心が高まっております。言い換えれば、使用後まで考慮したモノづくり、特に地球環境に負荷をかけないモノづくりが強く求められております。

当社においては、環境方針に「＜豊かな自然に恵まれた地球＞、その環境を永遠に保っていく」ことを掲げ、これまでも環境負荷低減につながるパッケージ開発を進めてまいりましたが、今後はより一層サプライ

チェーン全体で持続可能な社会に貢献する活動に注力してまいります。具体的には、環境負荷低減につながるパッケージの開発に加え、お客様の製造所におけるPTP包装工程で発生する廃棄PTPをマテリアルリサイクル化する仕組みの構築に取り組めます。

また別の切り口として、当社の保有する「包装」に関するノウハウ、経営資源やネットワークを活用し、スタートアップ企業との協業による持続可能な社会への貢献につながる新事業創造にも取り組んでまいります。

3_ 第3次CSR中期計画をスタート

2022年度にて第2次CSR中期計画が終了しました。第2次CSR中期計画では、多様性の推進としてカナリアプロジェクトの発足、労働安全衛生マネジメントシステムの全社運用開始、お取引先様向けCSRアンケートの実施などの成果を得た一方、達成することができなかった目標もあり、多くの課題が顕在化しました。また、お客様各社からはサプライチェーン全体でのCSR

推進など、当社に対する期待はより大きくなっていると感じております。これらの課題や期待に取り組むため、2023年度から2025年度までの第3次CSR中期計画を策定いたしました。

ステークホルダーの皆様には、第3次CSR中期計画の取組みと計画達成を通じ、より安心して当社とお付き合いいただけるよう努力してまいります。

CSR方針

「包」で安全安心を創造し、持続可能な社会に貢献する

CSR指針

社員と職場を包む

働き方および労働安全衛生 領域

「学び」「チャレンジ」する風土を醸成し、誰もが働き続けたいと思う「安全・安心」な職場づくりを推進します。

[関連するSDGs]



お客様と消費者を包む

品質および事業継続 領域

お客様、消費者の視点を第一に、高品質な製品を安定的に供給し続けます。

[関連するSDGs]



ビジネスを包む

コンプライアンスおよびサプライチェーン管理 領域

高い倫理観を持ち、お取引先様と共に世の中に必要とされ続ける企業づくりを進めます。

[関連するSDGs]



地球を包む

環境マネジメント 領域

人や地球環境にやさしい企業活動を行い、「包」を提供する企業として、外部との協業により持続可能な社会に貢献できる製品、サービスを創造します。

[関連するSDGs]



各種認証等



ISO14001 (環境マネジメントシステム)

すべての事業所で認証を取得しています。



大阪府障がい者サポートカンパニー
2018年度より登録されています。



えろぼし認定
2021年1月29日に取得しています。



EcoVadis社サステナビリティ調査
「シルバー」評価を受けています。
※EcoVadis社「シルバー」評価について
評価の基準は毎年見直されており、「シルバー」評価は最高位の「プラチナ(上位1%)」、次点の「ゴールド(上位5%)」に次ぐ評価で、上位25%以内に位置することを意味しています。

Contents

Top Message	1 - 2
— CSR方針・CSR指針・各種認証等／会社概要	3 - 4
— 【特集1】企業理念見直しと会社ロゴ刷新	5
— 【特集2】持続可能な社会の実現に向けた取組み	6 - 8
— 【特集3】第3次CSR中期計画の策定	9 - 10

当社の取組み2022

— 社員と職場を包む	11 - 12
— お客様と消費者を包む	13 - 14
— ビジネスを包む	15 - 16
— 地球を包む	17 - 18

会社概要

社 名 : 株式会社カナエ
本 社 所 在 地 : 大阪市中央区城見1丁目2番27号クリスタルタワー23階
設 立 : 1956年3月29日
資 本 金 : 3億5,381万4,600円
代 表 者 : 代表取締役社長 樋高成憲
事 業 所 : 本社、東京支店、名古屋営業所、富山営業所、西神ロジスティクスセンター、
栃木工場、神戸工場、愛媛第一工場、包装技術開発センター
グループ会社 : 株式会社カナエテクノス
株式会社カナエシーエスパック
※カナエエンジニアリング株式会社は、2023年1月21日付で弊社を存続会社とし合併しました。

事業領域

包装材料の販売 : 素材メーカー等500社以上
とのネットワークで最適な
包装材料を提案
包装機械の販売 : 使う立場に立った包装シス
テムを提案
包 装 加 工 : 多種多様な包装を、試作か
ら受託製造まで対応

業態許可

第二種医薬品製造販売業

【本社】

管理医療機器販売業

【栃木工場】

医薬品製造業（一般）

向精神薬製造製剤業者免許

向精神薬試験研究施設設置者登録

医薬部外品製造業（一般）

化粧品製造業（一般）

【神戸工場】

医薬品製造業（一般）

向精神薬製造製剤業者免許

向精神薬試験研究施設設置者登録

医薬部外品製造業（一般）

化粧品製造業（一般）

【愛媛第一工場】

管理医療機器販売業

医薬品製造業（一般、包装・表示・保管）

医療機器製造業（登録製造所）

体外診断用医薬品製造業（登録製造所）

医薬部外品製造業（一般）

化粧品製造業（一般）

カナエってこんな会社

主要活躍5分野

医 薬 品
化 粧 品
食 品
メ ディ カ ル
トイ レ タ リー

販売・購入のネットワーク

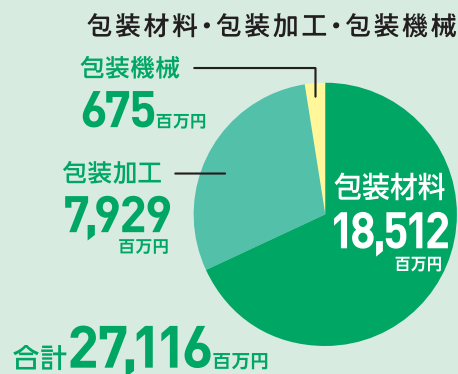
お得意先(販売先)様

550社以上

お取引先(購入先)様

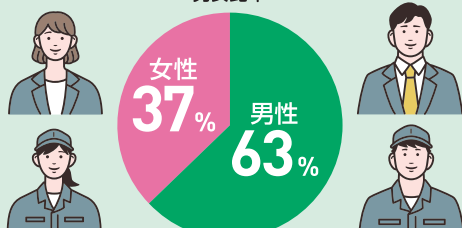
500社以上

売上構成 ※1



従業員数 **484名** ※2
(男性306名、女性178名)

<男女比率>



平均年齢
41.0歳

平均勤続年数
13年2ヶ月

平均残業時間数 ※1

15.1時間/月

平均有給休暇取得日数 ※3

11.4日/年

(世の中平均は10.3日/年 ※4)

育児休業からの 復職率 ※1

100%



※1 2021年10月21日～2022年10月20日の情報

※2 2022年10月20日時点

※3 2021年4月1日～2022年3月31日の情報

※4 厚生労働省「令和4年就労条件総合調査」より

特集1

企業理念見直しと会社ロゴ刷新

企業理念見直し

従前より行ってきた理念浸透の取組み開始から10年が経過し、理念浸透の重要性を再認識し、創業の精神について理解をより深められるよう、経営層を含むプロジェクトチームを発足し、企業理念の見直しを行いました。

企業理念

人々の幸せのために、新たな価値を創造し健康と豊かな生活に貢献します

- ①すべての社員の幸せ
- ②カナエの事業に関わる人々の幸せ
- ③社会すべての人々の幸せ

社訓

※社訓は従来から変更ありません。

- ①ニュー・ニューフロンティア精神を持つ
- ②見るよりも見られることに徹しよう
- ③実るほど頭を垂れる稲穂かな
- ④独創性を追求しよう

理念手帳「鼎心」の改定

当社では、企業理念の浸透・実践のため、理念手帳「鼎心」を発行しています。このたび、企業理念見直しに伴い、改定しました。「鼎心」は、当社が目指すべき方向性と従業員に求める行動や考え方を明確に示し、当社が培ってきた経験が盛り込まれています。



企業理念浸透への意気込み



取締役 管理本部長
大谷 安弘

現代はVUCA*と呼ばれる先行き不透明で将来予測が困難な時代だと言われ、こうした社会の変化、環境変化によって経営判断が非常に難しくなっています。そういう時に基準となってくれるのが企業理念です。

今回見直された企業理念には、「社員が職場や仕事にやりがいを持ち満足して働くことでお客様を大切に思い良い商品を提供できる。お客様様を通じて良い商品を多く世の中に提供すること

で社会に貢献できる。社会が良くなることで社員やその家族も良い環境で生活ができる。」といった循環が盛り込まれています。

こうした循環を達成するため社員一人ひとりが主体的に動き、個の力を高め、最終的に組織力をも高めていくことを目指して企業理念の社内浸透を図って参ります。

※VUCAとは Volatility(変動の大きさ)、Uncertainty(不確実さ)、Complexity(複雑さ)、Ambiguity(曖昧さ)の頭文字

会社ロゴ刷新

企業理念の見直し、「鼎心」の改定を契機に、「会社ロゴ」を刷新しました。新しい「会社ロゴ」は、やれることは自社でやろうという当社らしい考えに基づき、社内コンペで選定しました。

ロゴに込めた想い

ヒト・モノ・カネの3つの力が均衡を保ちバランスを崩さず発展するようにと意味の込められた社章の3つの■を、新たに社員・ステークホルダー・社会すべてとしても位置付けました。また、「a」を『包装材料のロール品』と中央の●を『包む』イメージにデザイン化し、弊社が『包装企業』であり、包装によって『新たな価値の創造』を提供することで、社員・ステークホルダー・社会すべての『幸せ』が安定することを表現しています。



特集2

持続可能な社会の実現に向けた取組み

2030年ビジョン

「カナエは新しいパッケージで市場創造し、持続可能な社会に貢献します。」

2030年ビジョンの実現、さらにはSDGs（持続可能な開発目標）への貢献に向けた取組みについてご紹介します。

① 資源循環に向けた取組みを進めています

持続可能な社会の実現に向けて包装における資源循環（サーキュラーエコノミー）への取組みが世界的に進んでいます。資源循環しやすくするためのモノマテリアル化については海外での取組みが先行しており、当社としてもグローバル基準で開発を進めています。

開発商品

ポリオレフィン系モノマテリアルパッケージ 「モノマテリアルPTP」

本開発品はInstitute cyclos-HTP*によって98%のリサイクル適性が認められました。この認証は循環経済のための設計ガイドラインに則り、ポリオレフィンベースの軟包装のリサイクル性について、軟包装構造の各要素を評価して、PEまたはPPのメカニカルリサイクルプロセスとの適合性を判断し認証しています。

*ドイツ アーヘンに本社を置く包装および商品のリサイクル可能性の分類、評価、認証、およびこの分野の研究開発を専門とする会社

「モノマテリアルPTP」の特長

アルミ箔を使用せず、蓋材に特殊加工OPPフィルムを使用し、成形材にCPPシートを使用したPTPです。



ポリプロピレンとしての「リサイクル適性98%（優れたリサイクル適性）」の認証を取得しました。

廃棄PTP*リサイクルの取組み

PTP (Press Through Package) 包装は、携帯性や保管性に優れており、日本国内では医薬品包装として広く使用されています。PTP包装は錠剤を収納するポケット部のプラスチックと蓋部のアルミ箔を熱でしっかりと圧着しているため、密閉性に優れた一方で、一度貼り合わせると分離が困難であり、多くの場合、廃棄PTPはRPF*化してサーマルリサイクル、もしくはそのまま焼却処分されています。

このような背景の中、当社は廃棄PTPをプラスチック材とアルミ箔に分離可能な設備を導入したオリックス環境株式会社様と連携し、廃棄PTPのマテリアルリサイクル*実現に向けた取組みをスタートしました。当社では、廃棄PTPをマテリアルリサイクルすることによって、PTPを焼却せずに処理することができるため、排出するCO₂量の削減による環境負荷の低減や資源循環に資する取組みになると考えております。

廃棄PTP…製造工程で生産ロスや抜きカスの発生、安定運転のための試生産などで廃棄PTPが発生してしまいます。今回は、工場で排出される廃棄PTP包装を対象としています。

RPF…Refuse Paper & Plastic Fuelの略称でマテリアルリサイクルが困難な古紙および廃プラスチック類を主原料とした高品位の固形燃料のことです。

マテリアルリサイクル…廃棄物を再び同じ製品、または別の製品の材料として再利用すること。マテリアルリサイクルするためには、廃棄物の素材ごとに分離することが必要です。



廃棄PTP包装



PTP剥離装置（オリックス環境株式会社設置）



剥離した
プラスチック



剥離したアルミ箔

② 当社サステナビリティ開発品のご紹介

当社が携わる包装業界では、石油由来のプラスチック材料を多く使用しており、環境問題として社会的な注目度が高まる中、各企業は情報収集だけでなく、積極的にサステナビリティ商材採用検討への取組みをスタートされ、サステナビリティ商材の需要がますます高くなっています。

当社は、包装材料メーカーや原料メーカーなどと協業して、商材開発を行うとともに、当社オリジナル商品で環境負荷を低減させる取組みを行っています。当社が開発を進めているサステナビリティ商材の一例についてご紹介します。(開発中の商材も含んでいます。)

紙素材を使用した開発品例

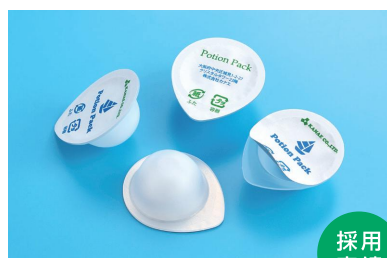
紙素材で代替することでプラスチック材料の使用量を低減



▲ 紙基材スタンディングパウチ



▲ 紙コスモパック



▲ 紙めくりフタ材ポーシオン

採用実績



▲ グラシン紙蓋材

採用実績



▲ 紙識別マークパウチ



モノマテリアル素材を使用

単一素材によるリサイクル適正化



▲ モノマテリアルPTP

前ページの
認証製品



▲ PETフィルム単一素材パウチ



▲ モノマテリアルポーシオン

③ 国内外の関連情報の収集・発信

国内、海外のパッケージに関する情報入手、発信を積極的にしています。2022年度はコロナ感染対策の変化に合わせ、サステナビリティ商材を多くの方々を知って頂くために、2022年5月に開催された「第2回 [関西] サステナブル マテリアル展」に出展いたしました。多くの方々に興味を持っていただき、改良のアドバイスをいただくことができました。そして更に改良したサステナビリティ商材を2022年12月に開催された「第2回 [東京] サステナブル マテリアル展」に出展いたしました。

コロナ禍での海外情報収集は渡航制限があり、バーチャル展示会やWEBによる情報収集が中心でしたが、渡航制限の緩和により海外視察が可能になりました。2022年度は海外視察を再開し、ACHEMA2022やPACKEXPO2022を視察し、EUのお取引先様を訪問して情報収集を行いました。今後は収集した情報の発信と新たな情報収集を行ってまいります。



第2回 [関西] サステナブル マテリアル展

部材の使用点数の削減／コンパクト化の開発品例

包装設計を工夫することでプラスチック材料の使用量を低減



▲ JOY CLEAR



▲ 2剤充填コスモパック

採用実績



▲ コンパクトSP



▲ 片面透明コスモパック

採用実績

詰替え包装の開発品例

本体容器のリユースを可能にする



▲ 詰替えコスモパック

採用実績



▲ 小容量スパウトスタンディングパウチ

リサイクル素材を使用したラミネートフィルム・シートの開発品例

リサイクル原料で石油由来プラスチックの使用量を低減



▲ リサイクルPETパウチビロー

採用実績



▲ リサイクルA-PETシリンジトレー

採用実績



▲ リサイクルPETスティック(レーザー加工)

採用実績

バイオマス素材を使用したフィルム・シートの開発品例

植物由来の原料で石油由来プラスチックの使用量を低減



▲ バイオマス素材PTP



▲ バイオマスコスモパック



▲ バイオマスプラスチック アウターパウチ

持続可能な社会への貢献につながる新事業創造について

2022年度より「未活用農産物の粉末製品化と販売」を事業として展開する株式会社エーエスピー様(本社:大阪府吹田市、代表取締役:林直樹氏、以下「エーエスピー」)との協業をスタートいたしました。

エーエスピーは、流通や消費の過程で廃棄処理されている農産物だけでなく、食べるには問題のない規格外や外観上の理由、また価格調整のために畑や加工場で廃棄される農産物(これらすべてをあわせて「未活用農産物」といいます。)を、農産品ごとにより最適な加工法を設計し粉末化、それぞれの原料の栄養成分を活かして、付加価値を付けて活用する事業を展開しています。当社は、食品分野を事業領域の一つとしており、エーエスピーの事業目的に賛同し、当社の持つ充填・包装のノウハウ提供を中心に協業を進めており、今後もエーエスピーの事業発展を通じて持続可能な社会へ貢献してまいります。



▲ 粉末化した未活用農産物

特集3

第3次CSR中期計画の策定

領域名	関連するSDGs	重要取組み事項
社員と職場を包む 働き方および 労働安全衛生 領域 	    	健康経営の推進
お客様と消費者を包む 品質および事業継続 領域 	   	BCPの推進 ※品質については自社の品質 マネジメントシステムにて 別途運用
ビジネスを包む コンプライアンスおよび サプライチェーン管理 領域 	   	サプライチェーンに 関するCSRリスク (ホットスポット)の低減
地球を包む 環境マネジメント 領域 	      	環境負荷低減商材の拡販 温室効果ガスの削減 SBT認定に向けた取組み サーマルリサイクルから マテリアルリサイクルへの転換

当社CSRの取組みは、4つの領域を設け、中期3か年の重要取組み事項と、それに基づく各年度の目標を定めています。2022年度は第2次CSR中期計画の最終年度にあたり、これまでの取組み成果や課題、外部要求事項や内部環境変化をもとに、2023年度から始まる2025年度までの第3次CSR中期計画を策定しました。これからもSDGsへの貢献を含め、当社が本業を通じて持続可能な社会に貢献できるよう取組んでまいります。

2025年度(70期)ゴール

2023年度(68期)の取組み予定

2025年度(70期)末までに
健康経営優良法人認定を取得する

認定取得に必要な施策が60%完了している

想定災害発生時の確実なBCPオペレーションが
実施可能な状態にある

- ① 商事、外製関係のBCP対応フローの整理と
手順書化と教育が完了している
- ② 工場復旧手順の問題点が解決している

当社指定のTier2*までのCSRリスクを把握する
※Tier2(ティア2):2次サプライヤー
当社が商品を購入するお取引先様へ材料を供給する会社

- ① CSRリスクが定義されている
- ② 当社指定のTier1※に対してCSRリスク調査の
スケジュールが案内できている
- ※Tier1(ティア1):1次サプライヤー
当社が商品を購入するお取引先様

新規受注金額の20%を環境負荷低減商材にする

オフィス 2022年度(67期)比△3%(絶対値)
工場 2022年度(67期)比△7%(原単位)

2025年度(70期)末までにSBTの認定を得る

工場から排出する廃棄物のマテリアルリサイクル
率を5%にする

新規受注金額の5%を環境負荷低減商材にする

オフィス 2022年度(67期)比△1%(絶対値)
工場 2022年度(67期)比△5%(原単位)

カナエグループでScope1,2,3の数字を把握する

マテリアルリサイクル手法の構築

社員と職場を包む

働き方および労働安全衛生 領域

「学び」「チャレンジ」する風土を醸成し、誰もが働き続けたいと思う「安全・安心」な職場づくりを推進します。



【実績表】

第2次CSR中期計画

2022年度

目的	目標	実績	評価
「社員の人生の充実を重んじ、希望と誇りと働き甲斐のある企業にする」の実践ができています	当社で取り入れ可能な施策を検討し、順次導入。導入済施策の改善検討、実施 ＜在宅勤務制度の改善＞ 従来制度を改善し、在宅勤務の二次募集ができています ＜シニア社員活躍＞ シニア社員活躍に関する研修ができています ＜本社フリーアドレスの実施＞ フリーアドレスの実現に向けプロジェクトのスケジュールが遅滞なく進んでいる	＜在宅勤務制度の改善＞ 新型コロナウイルス感染防止策としての在宅勤務を継続しているため、従来制度の改善および二次募集は行わず ＜シニア社員活躍＞ 着手できず ＜本社フリーアドレスの実施＞ 計画通りに進捗し、達成	— × ○
	2021年4月1日発効の「女性活躍推進法」の新しい行動計画の施策が計画通り実施されている ＜2024年3月末までの目標＞ 1. 管理職に占める女性割合を3年以内に15%以上とする 2. 女性労働者の継続雇用割合について、男性労働者の継続雇用割合の70%以上とする	＜目標1の取組み＞ 管理職候補者研修を実施し、男性8名、女性5名が参加 ＜目標2の取組み＞ 育児休業とコミュニケーションに関する管理職研修を実施	○
	リスクアセスメントで抽出した危険箇所のリスク削減ができています	全事業所のリスク削減策77件に対し、65件が完了している 達成率は84%で未達	×
	社用車、通勤車両の交通事故ゼロの取組みができています	対象となる事業所にて、定期的に教育を実施	○
健康経営への取組み	業務効率化による全社の総残業時間が10%削減できています	新型コロナウイルス対策としての在宅勤務緩和や工場繁忙等により、一部の部門を除き残業時間が増加	×
	健康診断再検査対象者への受診勧奨ができています	すべての事業所にて再検査対象者への受診勧奨を実施	○
労働安全衛生マネジメントシステムの確実性の浸透	労働安全衛生マネジメントシステムの運用課題の解決ができています	全ての課題解決には至らず	×
労働安全衛生の知識向上	各事業所にて教育機会を年1回以上設けている	全ての事業所で教育機会を設けた	○
社内全体の健康志向が高まっている	健康志向向上のための取組み参加者数を従業員の80%以上にする	取組み内容の検討に留まる	×

事故のない職場づくり(労働安全衛生マネジメントシステム)

当社では2022年度から自社の労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)を全社に展開しています。事故のない職場をつくるため、全ての事業所にてリスクアセスメントを行い、抽出された危険箇所のリスク削減に努めました。また、通勤時や社用車による交通事故の撲滅についても事業

所単位で教育機会を設け、それぞれの事業所にて教育効果を高める工夫がなされました。2023年度はさらなる成果を上げられるよう、OHSMSの運用改善や、社内浸透、リスクアセスメントの精度向上などに取組み、事故のない安全、安心な職場づくりを引き続き進めてまいります。

管理職研修実施について

2022年度に改正育児・介護休業法が施行されました。この改正の主旨である「企業が男女問わず、育児・介護休業を取得しやすい環境づくりを心がける」ことに対応するため、管理職向けに法改正の内容を説明し、各種制度に関する基本的な内容を再確認する研修を行いました。また、コロナ禍における対面コミュニケーションの減少や、働き方や価値観の多様化が進む中、必要な時に適切に指導でき、立場の違う相手とも意見を言い合える風土を醸成するためのコミュニケーション研修を行いました。



▲「【管理職研修】改正育児・介護休業法について」の様子

本社フリーアドレスの検討と運用開始について

当社の新しい仕事様式(Kanae Jobs Style)の考えに基づき、本社オフィスのフリーアドレス化プロジェクトを2021年度から開始し、2023年1月より運用を開始しました。テーマは従業員同士のコミュニケーション活性化とスペースの有効活用です。そのために必要なオフィスレイアウトを検討し、必要なスペースを確保するため、紙書類の電子化、文書保管年数の見直し等の5Sを実施しました。各部門の若手を中心としたプロジェクトメンバーは自由に意見を出し合い、

コミュニケーション活性化のために前日と同じエリアに座らないルールや、個人宛て荷物の受け渡しや清掃に関するルールなどの運用面も検討しました。

その結果、収納量は50%減を実現し、通常の執務以外に多目的に使用できる席を45席(変更前20席)確保しました。運用開始後は毎日、自分で好きな席を選び、異なる部署間でのコミュニケーションを取りながら業務を行っています。



フリーアドレス運用開始後の
執務室レイアウト図

リモートでのミーティングやセミナー視聴の機会増加に対応するため、高い防音性でミーティング等に集中することができるフォンブースを4台導入しました。会議室利用の混雑が緩和したことで、日程調整の手間が減りました。

ちょっとした打ち合わせや相談に利用できる「ミーティングスペース」としてハイテーブルや打ち合わせ用テーブルを各所に配置し、「ちょっと話そう」をしやすいオフィスになりました。



▲ ミーティングスペースの一例



▲ フォンブース

お客様と消費者を包む

品質および事業継続 領域

お客様、消費者の視点を第一に、高品質な製品を安定的に供給し続けます。



【実績表】

第2次CSR中期計画

2022年度

目的	目標	実績	評価
高品質な製品が安定的に供給できている	市場クレームゼロを目指した取組みができています <商事関係> 品質異常件数削減目標の達成 <工場関係> 品質目標100%達成 <外製関係> 品質異常件数削減目標の達成	・商事関係、工場関係は目標未達 ・栃木工場、神戸工場、愛媛第一工場ともに、一部目標が達成できず	×
緊急時に機能するBCP体制を構築する	BCMSの2022年度目標100%達成	達成は一部の目標に留まった	×

品質への取組み

当社が取扱う包装資材、当社工場生産品、外部製造委託品のすべてにおいて、その品質を保証し、お客様に「安心して使用していただける安全な商品」を安定的に供給することを基本方針としております。「品質マニュアル」に沿った活動を行うことで、常に品質改善が図られる仕組み作りを行っています。

当社の品質保証は、当社工場生産品だけでなく、外部製造委託品や包装資材等の販売品においても、その品質を担保できるシステムを構築しています。当社の各工場には、品質

管理部門と品質保証部門を設け、外部製造委託品や包装資材販売品においては、本社品質保証部門が製品品質の確保に取組んでいます。予防的な活動として、本社品質保証部門による当社工場への定期的な内部監査を行っています。また積極的に取引先様への監査、改善提案を逐次実施し、品質異常の低減に努めています。新型コロナウイルス対応のため訪問できない場合はリモートによる打合せや書面による監査を実施し、品質確保に取り組めました。

品質方針

1. お客様の視点で考え、当社の技術を結集してお客様の期待を超える品質をお届けする
2. お客様に提供する商品の安全・安心を保証する
3. 常に商品価値向上に向けた提案を行い、お客様とともに高品質商品を創出する
4. 品質・技術に裏付けられた迅速な対応によりお客様に感動を感じていただく
5. 品質システムの有効性を維持するため、継続的な改善を行う

『なぜ!?何故!?活動』

栃木工場、神戸工場では、改善活動として『なぜ!?何故!?活動』に取り組んでいます。

この活動は、その名の通り問題の原因を「なぜ!?何故!？」と深掘りすることで真の原因を探り、より有効な改善を図るもので、製品品質の向上や不良品の削減、さらにはお客様や消費者、使用者の安全・安心にも寄与しています。半期に一度発表会を実施し、予選を勝ち抜いたチームが活動内容や成果を報告し、「社長賞」「生産本部長賞」「工場長賞」を競い合います。

近年コロナ禍により参加人数を制限し、審査員はリモートで参加する対応を行っていましたが、2022年度は参加人数の制限は引き続き実施したものの、審査員は現地参加とし、約2年ぶりに現地での表彰式が開催出来ました。

発表会の内容は他工場にも共有し、取組みの水平展開や次の取組みの活性化を図っています。



▲ 神戸工場『なぜ!?何故!?活動』発表会の様子(包装技術開発センター 研修室にて)



▲ 栃木工場『なぜ!?何故!?活動』発表会表彰式の様子(栃木工場にて)



上席執行役員 生産本部長
笹野 英治

生産本部の取組みについて

『なぜ!?何故!?活動』と掲げる小集団活動により、自ら考え、自ら学び、自ら行動することにより無限の可能性を引き出し、更なる個人・各職場の能力向上へとつなげ、活力ある職場づくりと共に、製品品質の向上、原価低減、効率化、仕事の質の改善など、確実な成果を上げてきました。

今後もこの活動を継続し着実な成果を上げていくと共に、法令遵守はもとより、各工場で切磋琢磨することにより、お客様先様の製品の品質を守り、使用者の安全とお客様先様へ安心を提供し、どこよりも生産性を高めて、お客様先様、お取引先様と当社の更なる成長、信頼される工場を目指していきます。

災害に強い企業づくり(防災、BCPの取組み)

2015年からBCMS(事業継続マネジメントシステム)を全社展開し、災害等が発生した場合においても、製品の安定供給を果たせるよう取り組んでいます。

災害時は初動が大切という考えから、当社では従業員に対して安否確認システムの返信訓練や、各事業所における防災訓練を定期的に行っています。また、一部のお取引先様に対して安否確認システムを導入し、地震発生時の被災状況の早期把握にご協力いただいています。

防災訓練はコロナ禍において規模を縮小するなどの対応をとってきましたが、2022年度は工場にて従来の形で訓練を実施することができました。神戸工場では通常の防災訓練に合わせ、防災備蓄品の展示、非常食の試食や応急手当訓練などを組み合わせた企画を初めて実施しました。今後も当社事業の復旧が迅速に進められる体制づくりと、お取引先様との連携強化に向けた取組みを継続してまいります。

<防災訓練の様子>

神戸工場

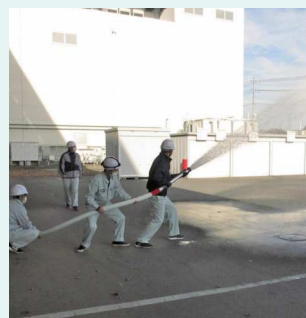


▲ 屋内消火栓放水訓練



▲ 心肺蘇生法の講習

栃木工場



▲ 屋内消火栓放水訓練



▲ テント設営訓練

ビジネスを包む

コンプライアンスおよびサプライチェーン管理 領域

高い倫理観を持ち、お取引先様と共に世の中に必要とされ続ける企業づくりを進めます。



【実績表】

第2次CSR中期計画

2022年度

目的	目標	実績	評価
CSR教育の継続的実施 ができています	本社、東京支店、神戸工場、栃木工場、愛媛 第一工場にてワークショップ開催ができて おり、全ての事業所からの参加ができています	目標に掲げた全ての事業所にてワークショップを開催し、 全ての従業員が受講した	○
	SDGs宣言キャンペーンが計画通り展開 できている	計画通りに展開し、寄付先も決定した	○
調達基本方針に沿った 購買活動ができています	2021年度に実施した調達基本方針に関する アンケート結果の課題対応が完了している	全ての課題対応が完了した	○
法規制遵守評価方法の 全社統一化ができています	法規制遵守評価方法の全社統一化ができて いる	法規制遵守評価方法の全社統一化には至らなかった	×

お取引先様へのCSRアンケートについて

近年は当社を含めたサプライチェーンの全てでCSR活動に
取組むことが社会的な要求事項となっています。

当社では、お取引先様におけるCSR活動の動向を知るた
め、2019年度より隔年でCSRアンケートを実施していま
す。2022年度は2021年度に実施したアンケート結果から
抽出した課題解決に取り組みました。

2023年度は第3次CSR中期計画にある「サプライチェーン
に関するCSRリスク(ホットスポット)の低減」の実現に向け、
当社にとってのホットスポットの設定とホットスポットが抽出
できるCSRアンケートにアンケート内容を改修し、対象とな
るお取引先様に対してアンケートを実施する予定です。

調達基本方針

私達はカナエCSR方針、CSR指針に基づき、以下のとおり調達活動を展開していきます。

1. コンプライアンス

(労働慣行) 各種関連法令を遵守し、社会的な要請に応えるため、
人権・労働安全衛生に十分配慮した活動を行います。
(機密保持) 業務上知り得た情報は、情報提供いただいた方の承
諾を取らずに第三者へ漏らすことはありません。

2. 公正な取引

(公平・公正) 新たに取引を希望される取引先に対しては、品質・
納期・価格・技術・経営の安定性・企業の社会的責任(CSR)の取組
み等を総合的かつ公正に評価し、その国籍・地域・企業規模等にと
らわれることなく真摯な姿勢で対応します。
また、既存取引先に対しても同様の評価を行います。
(購買倫理) 取引先と私的な利害関係は持ちません。また、発注
者の地位を利用した不当な圧力を用いることはありません。

3. 取引先との共存共栄

取引先をパートナーと位置付け、適正な品質・納期・
価格を確保し安定的な取引を実現する事を通じ、
WIN・WINの関係を目指します。

4. 環境

環境に配慮した購買活動を行います。

5. サプライチェーン管理

全ての購買先に対し、本方針に基づく取組みを啓発
していきます。

SDGsインナーブランディング

当社では、全ての従業員を対象にCSRやSDGsに関するインナーブランディングに取り組んでいます。

カードゲーム「2030 SDGs」を活用したワークショップ

2022年度は、全ての従業員を対象にワークショップを行いました。ワークショップでは、カードゲームを通じて体感的にSDGsを復習するとともに、社会課題解決のためにはサプライチェーンが協力して取組まなければならないことなどを学びました。また、「カナエとしてできること」としてSDGs

宣言キャンペーンを紹介し、キャンペーン参加の促しを行いました。

このワークショップは、コロナ禍で不足していた事業所内のコミュニケーションを改めて促すきっかけにもなりました。



▲ 東京支店の様子



▲ 神戸工場の様子



▲ 栃木工場の様子



▲ 本社（新卒研修）の様子

SDGs宣言キャンペーン

SDGs宣言キャンペーンは、当社が目指す「本業を通じた社会課題解決」に一人ひとりが取組むきっかけとして、まずは身近なことからSDGsに貢献していこうという考えから始まりました。2022年度は、2021年度に決定した「社内・従業員が取組んだ様々なSDGsに寄付する行動をポイント化し、そのポイントに応じて環境団体に寄付する」に関する具体的な取組みとして、「環境ラベルチャレンジ」と「SDGs貢献に寄与する既存取組みの活性化」を全社展開しました。「環境ラベルチャレンジ」はパッケージに印刷された環境ラベルを通して様々な環境問題があることに関心をもつとともに、環境ラベル認証取得事業者の事業支援につながるよう、日々の生活において環境ラベルがついた商品を積極的に購入し、その環境ラベルを台紙に集めようというもので、提出された台紙は1760枚になりました。参加した従業員の中には家族で取組む方もおられ、思わぬ盛り上がりとなりました。

キャンペーン全体で積み上げたポイントは上限の10万ポイントを達成しました。ポイントの寄付先は地域の自然保護の担い手となる「自然観察指導員」の育成、絶滅危惧種や森林・里山、砂浜の保護に取り組んでいる公益財団法人日本自然保護協会に決定しました。寄付金については当事業が海洋プラスチック問題と関係することから、同団体が主催する砂浜の保護や美化に取り組む「全国砂浜ムーブメント」の2023年度活動に役立てられます。



▲ 「全国砂浜ムーブメント」HPはこちら



▲ 感謝状をいただきました



▲ 環境ラベルを貼付し提出された台紙



▲ たくさんの台紙が提出されました

地球を包む

環境マネジメント 領域

人や地球環境にやさしい企業活動を行い、「包」を提供する企業として、外部との協業により持続可能な社会に貢献できる製品、サービスを創造します。



【実績表】

第2次CSR中期計画

2022年度

目 的	目 標	実 績	評 価
サプライチェーン全体で環境負荷低減の取組みを推進する	サプライチェーン全体における環境負荷低減に向けた活動を開始する	2件の目標を設定したがいずれも未達	×
環境負荷低減素材の開発	環境負荷低減製品の新規採用14件	新規採用件数21件	○
環境負荷低減素材情報の入手提案	環境負荷低減素材情報の入手提案件数: 103件 (2021年度比10%増)	入手提案件数: 106件	○
環境負荷低減素材の拡販	環境負荷低減製品の販売実績のうち新規受注の件数が100件以上	新規受注数: 227件	○
温室効果ガスの排出量削減	オフィス部門: 2019年度比3%削減 (絶対値)	2019年度比50%増加 ※包装技術開発センター・西神ロジスティクスセンター新設に伴う影響を含む ※既存施設実績: 2019年度比12%増加	×
	工場: 2016年度比7%削減 (原単位)	2016年度比2%削減 (原単位)	×
生産ラインの稼働率向上	生産ラインの稼働率の向上、不良率の削減	17件の目標を設定し、11件が達成	×
業務効率化等プラス側面への取組み	- 業務効率化により温室効果ガス・資源・廃棄物・コストの削減になっている 5S活動が各部門で実施出来ている	37件の目標を設定し、36件が達成	×
生物多様性に配慮した活動の推進	30名以上の事業所において、生物多様性活動が継続出来ている 30名以下の事業所においては、ボランティア休暇 (環境・災害復旧等) の取得を推進する	コロナ禍により、活動を自粛中	—
サーキュラーエコノミー化を推進する	サーキュラーエコノミーへの具体的な取組みを行えている	サステナビリティ推進室にて協業先との検討を進めているが、具体的な取組みに至らず	×
法規制及び当社の同意したその他の要求事項の順守	環境関連法規制が順守できている	定期的な順守評価を行い、適切に運用できていることを確認している	○
全社員の環境意識の向上	CSRに関わる教育を実施する	全ての従業員に対し、SDGsカードゲームのワークショップを実施	○
	環境問題の記事を社内報に掲載する	期中に発行した社内報6刊全てに掲載した	○
外部コミュニケーション強化	CSR報告書を発行し、ステークホルダーに説明できている	説明先として抽出した238社の目標に対し、235社に説明をおこなった	×
マネジメントシステムの確実性の強化	部門長に対する定期的な教育が出来ている (環境マニュアルの理解)	定期的な教育は行えず	×

(上記の目的・目標は第6次環境中期計画に基づきます)

温室効果ガス排出量削減への取組み

温室効果ガス排出量削減は世界共通の課題となっており、当社も各事業所で取組みを進めています。2022年度は、7月より栃木工場で一部電力をグリーン電力に切り替えました。愛媛第一工場では2021年度にCO₂排出量ゼロプランの電力を導入していますが、グリーン電力の導入はこれが初めてになります。一方、2021年度からコロナ対応で実施している時差出勤による事業所稼働時間の延長は継続している中、栃木工場新棟の稼働や全社的な繁忙により2022年度の温室効果ガス排出量は大幅に増加しました。今後は、温室効果ガス排出量削減に向けた取組みを継続しながら、SBT認定に向けた活動に取組んでまいります。

全事業所CO₂排出量 (Scope1、Scope2)

	2020年度	2021年度	2022年度
*1)Scope1	769 t	803 t	1,087 t
*2)Scope2	2,975 t	3,060 t	4,236 t
合計	3,744 t	3,863 t	5,323 t

*1)Scope1…事業活動による直接排出

*2)Scope2…事業活動による間接排出

SBTとは「Science-based targets」の略で、産業革命以来の気温上昇を2℃を十分に下回る水準に抑え、また1.5℃に抑えることを目指し、各企業が設定した温室効果ガスの排出削減目標とその達成に向けた国際イニシアチブで、パリ協定に沿った内容となっています。

廃棄物削減への取組み

2022年度の当社のリサイクル率は98.1%でした。しかしながら、現在のリサイクル方法の中心は焼却物の熱を再利用するサーマルリサイクルを採用しているため、マテリアルリ

サイクルへの転換が課題となっています。今後は2025年度までに、マテリアルリサイクル率5%を目指した取組みを推進します。

2022年度 産業廃棄物排出量

	神 戸 工 場	栃 木 工 場	愛媛第一工場	西神ロジスティクスセンター	協 力 会 社	合 計
総排出量	119.0 t	104.4 t	11.2 t	11.1 t	2.5 t	248.2 t
非有害廃棄物	118.0 t	104.4 t	10 t	11.1 t	2.5 t	246 t
有害廃棄物	1.0 t	0 t	1.2 t	—	0 t	2.2 t
リサイクル量	117.4 t	101.5 t	11.1 t	11.1 t	2.5 t	243.6 t
リサイクル率	98.7%	97.2%	99.1%	100.0%	100.0%	98.1%

生物多様性への取組み

当社では2014年度より生物多様性への取組みを継続しています。当初は本社、神戸工場、包装技術開発センター、西神ロジスティクスセンターのみの活動でしたが、2018年度には東京支店、栃木工場にも活動を広げ、2020年度

には新たに愛媛第一工場、名古屋営業所、富山営業所における活動内容を決定しました。現在はコロナ禍のため活動を見合わせておりますが、感染状況を見ながら、2023年度に活動を再開する予定です。

事業所名

主催・連携先

活動内容

本社・神戸工場・包装技術開発センター・西神ロジスティクスセンター	大阪府、岸和田市、特定非営利活動法人 神於山保全くらぶ	良好な里地里山環境を目指した竹林の間伐、下草の伐採等
東京支店	谷津干潟自然観察センター	谷津干潟保全に向けた清掃活動、干潟に関する環境教育受講等
栃木工場	もおか環境パートナーシップ会議、真岡市役所	ホテルの住むような自然環境への再生を目指した落ち葉回収、間伐等
名古屋営業所	社会福祉法人名古屋北区社会福祉協議会、ロマン黒川の会	営業所近くの黒川の清掃活動
富山営業所	公益財団法人富山県民福祉公園	五福公園等の清掃・花の植え替え等
愛媛第一工場	四国中央市ボランティア市民活動センター	動物が住めるような山への再生を目指したお遍路道の清掃・整備等

地域社会への貢献

東日本大震災遺児支援

「みちのく未来基金」は、東日本大震災により親を亡くした子どもたちの支援として、サポートの少ない「大学及び専門教育への進学」に焦点を当てた基金です。当社は基金発足

時より参画し、12年目に入りました。この基金により、2022年4月時点で計1,045名の方が進学されました。今後も「みちのく未来基金」を通じて支援をしてまいります。

編集方針

当社発行の「CSR REPORT 2022」は2022年度の主なCSR活動について、取りまとめたものです。

当社の企業理念・社訓をはじめ、CSRに対する姿勢、具体的な取り組みなどを掲載しています。また、巻末にはアンケートを挿入しています。今後の当社のCSR活動あるいはCSR報告書の改善につながる内容となっておりますので、皆様の忌憚ないお声を是非お聞かせください。ご協力をお願いいたします。

報告対象

株式会社カナエ

報告対象期間

事業年度2022年度(第67期)
2021年10月21日～2022年10月20日
※一部2023年度の内容も含みます。

発行

2023年2月



お問い合わせ先

株式会社カナエ 経営企画室

〒540-6023 大阪市中央区城見1丁目2番27号クリスタルタワー23階
TEL 06-6945-1223 FAX 06-6945-1614
<https://www.kk-kanae.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

